

分布圖を擧げて説明し猶ほ美しき燔岩鍾乳石及燔岩石筈の四葉の圖版を附す。

六、間歇泉—宮城縣鬼首吹上間歇泉を説き其の他の間歇泉として熱海、長野縣澁(圖版付)及新潟縣瀨瀨(圖版付)を紹介す。

七、浸蝕に關する現象—宮崎縣庄内村關の尾の泥熔岩中の甌穴を二個の圖版で説明す。

八、火山岩の節理—唐津の七ツ釜(圖版)、芥屋の大門(圖版付)、但馬玄武洞、伊豆の石英安山岩、山口縣石柱溪の斑岩床の節理(圖版付)を擧ぐ。就中七ツ釜の圖版は珍らしく鮮明なものである。

以上の如くにして本書殊に地鐵の部は一般人士をして著しき地質物現象を知得させるに役立つものである。(N)

報 雜

○外蒙の交通路

蒙古は人民の大多數遊牧生活を營み定住せざると、地理的に通行容易なれば道路は發達せず、されど其主要なるもの左の如し。

一、庫倫より南張家口まで約一千露里、車馬は勿論自動車を通ず、最近庫倫より平地泉に至る自動車道路開通セリ。
二、庫倫より北寶賈城に至り露領恰克圖に出づるもの、三百

六十露里。

以上の二線は蒙古第一の幹線で、三四十露里ごとに露人の旅宿あり、自動車の便あり。

三、庫倫より東方サンベイスに至り、之より滿州里、ハイラル又はボルジャ驛に至るものも最近に開けたり、庫倫サンベイス間三八〇露里、同地より滿州里まで同じく三八〇露里、これ又自動車の便あり。

四、庫倫より西五〇〇露里ツアインシャビに達し、更らに四百五十露里にてウリヤスタイに至り、猶四百五十露里を西すればコプトに達すべく、露人はこれをチヌヤ街道といふ本街道は山河多く交通困難を極めしも、目下は自動車の便あり。

以上四大道路は蒙古の幹線であるが、最近滿州里庫倫間、庫倫及コプトの間は道路地形工事を行ひ其改良工事を行ふこととなつた、工夫の大部分は露國人を招くことである。

自動車の蒙古に現はれたのは一九一〇年頃であるが尙も貨客あれば何所でも馳せる、現時定期自動車は左の區間に行はれてゐる。

一、庫倫、ウエルフネウヂンスク一週二回

二、庫倫張家口間一週一回
旅客運賃は大約左の如し。

滿州里—庫倫間一〇〇〇露里一人六〇—八〇元、庫倫ウエルフネウヂンスク六〇〇露里同百元

蒙古に汽船が現はれたのは、一九一三年コソゴル湖に浮んだ小汽船である、一九二六年以後

一、カールホルン河、ウスチ、キヤクタ、ーウスチハラゴル間一週二回、七月十日航行開始。

二、セレンガ河ウスチ、キヤクタ、ーエギンゴル河口間、一週一回、同上十五日開始。

即ちセレンガ河の水運を利用しはじめたので非常に便利になつたらしい。

外蒙は砂漠のあちちで、野蠻だなどと思つてゐてはならぬ露人の力で風氣は日々にかけてゆくのである。

○世界紡績鐘數

(一九二六年七月末) 昨年七月三十一日現在の統計によれば世界總鐘數は一億六千三百七十二萬三千鐘で、半年以前の一月現在に比して七十五萬一千鐘を増加して居る。

日本は半年間に五百四十四萬七千鐘より、五百五十七萬三千鐘となつて、十二萬六千鐘を増した、主要國の鐘數は左の如し。

英國	七、二六、〇〇〇	露國	七、二六、〇〇〇
合衆國	三、五五、〇〇〇	日本	五、五七、〇〇〇
獨逸	一、〇四八、〇〇〇	伊太利	四、八三、〇〇〇
佛國	九、五二、〇〇〇	致須國	三、五八、〇〇〇
印度	八、五〇、〇〇〇	支那	三、三六、〇〇〇

備考 露西亞は右の内五、二八九、〇〇〇鐘のみ操業中紡績國としては日本は未だ世界第七位であるにすぎない。

○米國の空中飛行便

現在米國には一大空中飛行郵便網がある、紐育、桑港間の大陸横斷線二六六五哩を第一とし紐育市俄古七七〇哩を夜間に飛行する、これは國營の幹線で私營で政府と契約の下にやつてゐるものは左の如くである。

- ホストン紐育間、一八五哩。市俄古セントルイス間二七七哩、シカゴ、ダラス間九五五哩、ソルトレーキ、ロスアンゼルス間五八九哩、パスコ、エルコ間四二四哩、デトロイト、クリフランド間九一哩、デトロイト、市俄古間二七八哩、シヤトル、ロスアンゼルス間一〇七三哩、シカゴ、ミネアポリス、セントポール間三八四哩、アトランタ、マヤミ間七四〇哩、クリフランド、ピツ、バルク間一一五哩、チェヤノ、ブエアロ間二〇〇哩、シヤトル、ヴェイクトリヤ間七八哩、ニューオルリンス、パイロットタウン間八〇哩、ヒラテルヒヤ、ノーフォーク間、デトロイト、グランドラビズ間一四〇哩、クリフランド、ルイスヴィル間三四二哩。

以上は主として郵便物のみを運送する、又夏季の晝間のみしか用に立たぬ程度である、目下近き將來に於て完成すべき航空路九四七五哩の中二〇四一哩の大陸横斷線には航空燈臺の設備あり、三十哩毎に着陸場あり、ラヂオ信號塔は二百哩ごみに設置せられんとしてゐる、郵便稅率は一オンス又は三地帯の所で八仙であるから紐育から市俄古までが八仙チェヤノ迄が十六仙、桑港迄が二十四錢である、夜間は市俄古、紐育間で一區ごとに十仙である。

○シベリアの毛皮 シベリアの毛皮獸中最重要なものは栗鼠、黒貂、野兔、白貂、熊、貉及狐である。

黒貂は昔はウラル山よりベーリシカ海に至る間の諸所の森林に盛に棲息したるも、今日では人跡未到の地にのみ残存し主として極東露西亞から出る就中勘察加が主産地で半島のクロナキ地方が天然の繁殖地である。栗鼠は樅屬及杉屬の繁殖する所必ず栗鼠を見ざるなく、東部の産は黒味多く綿毛が多く、ウラルの産は灰色で、ネルチンスクは灰青色である。狐は森林にもステツプにも産しシベリア産は歐洲産よりも大きい、レナ河地方のは深黄色でカムチャツカ産は暗赤褐色である、コサツク狐は其毛柔軟温暖にして帶褐色か白、又は黄である、これはステツプに住む、又北極産は密茂せる白色の毛皮で稀に帶青白色である、其優等品はレナ河地方に出る、銀狐といふのが又シベリアに出る。

○第四十五回文部省地理科本試験筆答問題 (大)

正十五年十二月十七日執行)

- 一、地球の年輪に關する諸假説につきて記せ。
- 二、鐵泉の種類を擧げ其の分布を決定する條件につきて記せ
- 三、内陸流域につきて其の分布、及び成因を記し併せて其の

人文に及ぼす影響を述べよ。

- 四、ニューシトランドを圖示し其の自然地理を説明せよ。
- 五、アルプ山脈横斷の交通路を圖示し説明せよ。
- 六、筑紫平野の地誌を述べよ。

七、次の諸項につきて知る所を記せ。

- (イ)屏東(ロ)ケニヤ(Kenya)(ハ)アムステイア(Aberdeen)
- (ニ)ブルース(Dutch)(ホ)グラン・チャチ(Gran Chacho)
- (ヘ)スワイヤ海淵(Swine deep)(ト)租界

質 疑 應 答

問 地殻平衡説と山脈と海溝との關係

答 完全に地殻の平衡が行はれてゐる深さに就ては Hayford は約百二十籽、Bowie は約百籽といひ學者に依つて意見に多少の相違はあるが平衡の行はれる事實に關しては殆ど疑ふものはない。ボーウ井は一九二二年にアイソスターシと山脈、海溝との關係を次の通りに述べてゐる。

今、完全に平衡が保たれてゐるときは少なくとも約七十平方籽の表面積を有する地殻の柱を考へると、大陸も海底も百籽の深所に於ては同様の壓力を感ずることとなる(ウイリス等は表面積には何等考慮を及ぼさないがボーウ井は餘り小面積ならば全體として平衡が保たれてゐても局部的には不同があるといふてゐる)然るに、地表に於て浸蝕、運搬其他